



■ シラバス登録 プレビュー



選択したシラバスのプレビュー画面です

平成30 年度

[操作ボタン](#)

講義科目名称： **国際社会学B**

授業コード： **52057**

英文科目名称： ---

開講期間	授業形態	単位数	科目必選区分
後期	講義	2単位	
曜日時限			
後期: 金曜2限			
配当学科・学年			
人社2			
担当教員			
岡島 克樹			

授業テーマ	国際協力とは何かを学ぶ
講義概要	「国際社会学A」（前期）では、世界では何が起きているのか、日本と世界、とりわけ途上国と呼ばれてきた国々とはどのようにつながってきたのかを考えたあと、本講（後期）では、日本と途上国とのつながりのなかから、国際協力をとりあげ、その概要について学ぶ。より具体的には、国際協力の定義やそれを行う動機や目的、政府やN G O（非政府組織）が行う国際協力活動のそれぞれの特徴、国際協力事業の企画・評価について学ぶ機会を提供する。
到達目標	国際協力とは何かについて、その概要が理解できる。
評価方法・フィードバックの方法	【評価方法】 （１）授業内テスト（７０％） （２）外部講師来訪時に課す小レポート（２～３本）（３０％） 【フィードバックの方法】 ・小レポートについては、ルーブリックをもちいて採点基準・採点結果を明示し、自分のレポートのどこが強くどこが弱いのかを学生が理解しやすい形にして返却する。 ・質問に対しては、次の授業時に全体に向けて回答・説明し、必要におうじて質問者に個別に解説を行う。
評価基準	（１）授業内テストは、国際協力の定義や隣接概念との相違、類似概念との相違、国際協力がその達成を目指す目的の変遷、国際協力を行う動機に関する諸説、日本のO D AやN G Oによる活動の特徴等）について基本的な知識を有しているかを確認するために行う。「秀」はそのような知識が十分に定着し、自分のことばで再現できているとともに、自分の考えを論理的に説明できている場合、「可」は基礎的な理解にわずかな誤解が含まれていることもあるが、自分なりに考え、その結果を書く意欲を示している場合に付与する。 （２）小レポートについては、ルーブリックをもちいて採点を行う。ルーブリックに記載されている評価基準は、①日本語の正確さ、②構成（全体・ラベル）、③内容（広さ・深さ・ルールへの遵守）とするが、秀、優、良、可の区別については、授業中に配布するルーブリックを参照してください。
テキスト	なし
参考書	必要に応じて紹介する。
履修上の注意	（１）「社会研究実習」でカンボジアスタディツアーに出かける学生にとって本講はスタディツアーの事後学習の一部をなすものである。そのため、スタディツアーへの参加を希望している学生は本講も履修するようにしてください。 （２）本講では、国際協力の現場で活動されてきた方を外部講師として招き、レクチャーを行っていただくことがある。その際は、その外部講師の方のスケジュールによってシラバスに書かれた授業の内容が前後することがあるので、あらかじめ了解しておいてください。
準備学習＜予習・復習の時間・内容＞	2単位の修得には、2時間×15回の授業のほかに合計60時間（4時間×15回）の事前事後の学習が必要である。30時間の事前学習（予習）と30時間の事後学習（復習）を目安に学習に取り組んでください。具体的には、以下のとおりである。【予習】回によっては、参考文献を事前配布するので、その際は十分な時間をかけて読んでいないに目をとおすようにしてください。 【復習】毎回の授業後、自宅で配布資料を読み返したり、授業中に紹介する参考図書を手し、授業理解の深化をはかってください。また、外部講師による授業の際には、レポート課題を出し、授業内容を正確に、かつ、自分のことばで言語化するとともに、その授業をうけて考えたこと・疑問に思ったことを書くようにしている。十分な時間をかけて、自宅で取り組み、次の授業に提出するようにしてください。
オフィスアワー等	授業後の時間を利用して質問等に対応する。また、木曜日1限目をオフィスアワーとしているので、気軽に研究室を訪ねてくるようにしてください。
備考・メッセージ	

授業計画						
回数	授業形態	担当教員	授業内容	到達目標		
1	講義	岡島	オリエンテーション	本講全体の学習到達目標・意義が理解できる		
2	講義	岡島	国際協力の定義および隣接・類似概念との関係に関する講義	本講の中心となる「国際協力」の定義や「国際貢献」などとの関係が理解できる		
3	講義	岡島	国際協力の動機に関する講義	国際協力を行う動機に関する諸説の内容が理解できる		
4	講義	岡島	国際協力の目的の変遷に関する講義（その１）	経済開発・社会開発・人間開発・人間の安全保障それぞれの違いが理解できる		
5	講義	岡島	国際協力の目的の変遷に関する講義（その２）	経済開発・社会開発・人間開発・人間の安全保障それぞれの違いが理解できる		
6	講義	岡島	国際協力のアクターに関する講義	前期に行った授業を復習しつつ、国際協力にはどのような人がかかわっているのか、とりわけO D Aの特徴がより深く理解できる		
7	講義	岡島				

			国際協力のアクター（JICA）に関する講義	ODAの実施機関であるJICAの目的や組織、活動内容について、その概要が理解できる		
8	講義	岡島	国際協力で語られる重要概念―「参加」に関する講義	国際協力を理解するうえで重要な概念である「参加」の概念とその変化が理解できる		
9	講義	岡島	国際協力で語られる重要概念―「エンパワメント」に関する講義	国際協力を理解するうえで重要な概念である「エンパワメント」の概念とその変化が理解できる		
10	講義	岡島	国際協力で語られる重要概念―「人権」に関する講義	国際協力を理解するうえで重要な概念である「人権基盤型アプローチ」の概念と実践について理解できる		
11	講義	岡島	国際協力事業の企画手法PCMに関するワークショップ（その1）	国際協力で広く使われる事業企画手法の概要が理解できる		
12	講義	岡島	国際協力事業の企画手法PCMに関するワークショップ（その2）	国際協力で広く使われる事業企画手法の概要が理解できる		
13	講義	岡島	国際協力事業の企画手法PCMに関するワークショップ（その3）	国際協力で広く使われる事業企画手法の概要が理解できる		
14	講義	岡島	国際協力事業の評価に関する講義	国際協力で広くもちいられているDAC評価5原則やその他の評価の動きについて、その概要が理解できる		
15	講義	岡島	総括（授業内テストの実施・解説、学習到達目標の確認ならびに補足的説明）	本講全体をつうじて、学習到達目標がどの程度達成できているのか、自身で理解することができる		

授業方法					
	学習方法	場所	教員数(補助者数)	教科書以外の教材など	時間(分)
	講義・演習	教室	1		90分×15

閉じる